

お 名 前	性 別	卒 業 年	小 学 校	現 住 所
大沢 <small>ゆうきち</small> 佑吉	男 性	昭 3 2 年 (1957)	清 水 野 小	神 奈 川 県

「 オートバイ 」

(5年生当時の作文)

昭和30年発行文集「つどい」

新城町南部国語研究会発行より転載

ぼくの家では6月の初めごろオートバイを買いました。オートバイ屋の人が帰ってから、大きいお兄さんが、「今かけ方を教えてやる。」と言ってぼくたちにかかけ方や止め方などを教えてくれました。ぼくはまだあまりわからんが、「わかったよー。」と言ったら、兄さんは「そんなら乗してやる。」と言ったので、ぼくはあわてて、手早く飛び乗りました。

オートバイに乗るのは初めてなので、こしかけの上でふわふわさせるように飛び上がりながら、みんなに見せかけていると、ダダダダと動き出したので、びっくりしていると、みんなが、「はははは」とわらっていました。ぼくが、あーものすごいけいきがいいなと思っていたら、「さあおりようよ。」と言ったので、はい北にある遠い鉄塔まで行ってきたのかと思うと、うそのように思いました。今度は、ぼくと彦一とかわりました。彦一も鉄塔まで行きました。ぼくは土手の上で見ながら、「あー、速いなー。」と言いながら、「もういっぺん乗してくりよう。」と言うと、「まあしまうだよ。」と言った。兄さんは事務所へしまいました。だれも入らないように、カギを持ってきてじょうをしめておきました。